

## (2) スポーツ振興について

### 【スポーツ課】

1. 第2期滋賀県スポーツ推進計画策定について (資料4-1)
2. 県立社会体育施設の今後の方向性について (資料4-2)
3. 新県立体育館の移転整備について (資料4-3)
4. 滋賀県における生涯スポーツ施策について (資料4-4)
5. 滋賀県における障害者スポーツ施策について (資料4-5)
6. プロスポーツの振興について (資料4-6)

### 【保健体育課】

7. 次代を担う子どもの運動・スポーツ活動について (資料4-7)

## (2) スポーツ振興について

### 第2期滋賀県スポーツ推進計画策定について

#### 1 目的

平成25年3月に策定された「滋賀県スポーツ推進計画」が概ね5年を期間としていることや平成27年12月に「滋賀県スポーツ推進条例」が制定されたことなどを受け、平成30年3月に本県のスポーツ推進の指針となる「第2期滋賀県スポーツ推進計画」を策定する。

#### 2 方向性

##### (1) 滋賀県スポーツ推進条例に依拠した計画の検討

現行の「滋賀県スポーツ推進計画」は、平成25年3月に「滋賀県基本構想・滋賀県教育振興計画（基本理念）」に基づいて策定されたもの。

今回策定する「第2期滋賀県スポーツ推進計画」は、平成27年12月に制定された「滋賀県スポーツ推進条例」制定後としてはじめての策定となり、現行計画に含まれていない「障害者が行うスポーツ活動の支援・充実」や「スポーツ選手の競技水準の向上および指導者等の育成」を基本方針として盛り込む必要がある。

##### <滋賀県スポーツ推進条例が示す7つの基本理念>

- ・自ら行うスポーツ活動の充実
- ・次代を担う子どもの運動・スポーツ活動の充実
- ・障害者が行うスポーツ活動の支援・充実
- ・スポーツ選手の競技水準の向上および指導者等の育成
- ・スポーツ環境の充実
- ・スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化
- ・滋賀の特性を活かしたスポーツの推進

##### (2) 国体・全国障害者スポーツ大会、東京オリパラ等を見据えた計画の検討

現行計画の検証を行うとともに8年後の国体・全国障害者スポーツ大会、2020東京オリパラ、関西ワールドマスタースゲームズ2021等の開催を見据え、すべての県民が身近にスポーツを感じられるよう計画に反映する。

##### (3) スポーツ実施状況調査を踏まえた検討

今年度行うスポーツ実施状況調査を通して、成人のスポーツ実施率やスポーツライフに関する現状を明らかにするとともに、県民のスポーツに対する現状や課題についての検証を踏まえて、県民のスポーツ活動の充実が図れるよう、実効性のあるスポーツ推進計画の策定を目指す。

### **3 今後の予定**

平成 28 年度 審議会への諮問、本県スポーツの現状および課題の整理、骨子案の検討  
平成 29 年度 計画素案、答申案の検討、答申、パブリックコメントの実施、計画策定

※ 適宜、検討状況を議会に報告

# 滋賀県スポーツ推進計画とは？

滋賀県では、平成14年3月に策定した「滋賀県生涯スポーツ振興計画」を見直し、滋賀県スポーツ推進審議会からの答申をもとに、「滋賀県スポーツ推進計画」を策定しました。

- すべての県民が幸福で豊かな生活を営むことができる共生社会を実現するため、滋賀のスポーツ推進に関する施策の基本的方向と具体的方策を明らかにしています。
- 平成23年8月に施行された「スポーツ基本法」第10条に基づく計画です。さらに、平成24年3月に策定された「スポーツ基本計画」を踏まえた計画です。



## 目指す姿

すべての県民が身近にスポーツを楽しみ、自ら進んで参画し、互いに連携・協働することを通じて、幸福で豊かな生活を営むことができる共生社会の実現

## 基本方針

- 1 自ら行うスポーツ活動の充実
- 2 次代を担う子どもの運動・スポーツ活動の充実
- 3 スポーツ環境の充実
- 4 スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化
- 5 滋賀の特性を活かしたスポーツの推進



自ら行うスポーツ活動の充実



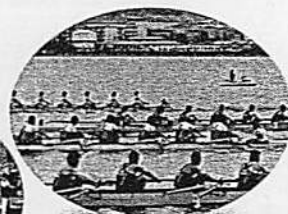
次代を担う子どもの運動・スポーツ活動の充実



スポーツ環境の充実



スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化



滋賀の特性を活かしたスポーツの推進



## 計画の期間

平成25年度(2013年度)から概ね5年間の計画です。

# スポーツ推進の具体的展開



### 基本方針

自ら行うスポーツ活動の充実

次代を担う子どもの運動・スポーツ活動の充実

スポーツ環境の充実

スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化

滋賀の特性を活かしたスポーツの推進

### 展開方策

県民総スポーツの機会づくりの推進

女性の参加機会の拡充

中高年の運動習慣定着化の推進

障害のある人の参加機会の拡大

幼児期からの運動(遊び)・スポーツ活動の充実

体育・保健体育の授業の充実

運動部活動の活性化

優れた能力を有するジュニア世代の発掘・育成

スポーツ観戦機会の拡充

地域スポーツクラブの育成

スポーツ指導者等の育成

スポーツエキスパートの育成

学校体育施設・スポーツ施設の活用・充実

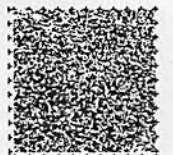
地域とスポーツ団体との連携・協働の推進

大学、企業等とスポーツ団体との連携・協働の推進

スポーツイベント、トップアスリート等を活かした地域の活性化

琵琶湖をはじめとする自然を舞台とした環境に優しいスポーツの推進

それぞれの市町の特性を活かしたスポーツの推進



## (2) スポーツ振興について

### 県立社会体育施設の今後の方向性について

#### 1. 経過

平成 26 年度「県立社会体育施設の最適な管理についての調査研究」

滋賀県において、平成 36 年に開催が予定されている国体・全国障害者スポーツ大会を見据え、既存の県立社会体育施設の現状と最適な施設管理について調査研究を実施した。

#### 2. 県立社会体育施設の今後の方向性

平成 26 年度において実施した「県立社会体育施設の最適な管理についての調査研究」の結果を踏まえて、国体・全国障害者スポーツ大会での活用等を見据え、慎重に検討した結果、各施設毎に下記の区分により分類し、施設整備を実施する。

整備にあたっては、施設の複合化の可能性についても併せて検討する。

##### (1) 移転整備を行う施設

- ・ 県立体育館

##### (2) 大規模改修を行う施設

- ・ 琵琶湖漕艇場

##### (3) 現状施設の維持修繕を行っていく施設

- ・ 長浜ドーム（長浜バイオ大学ドーム）
- ・ アイスアリーナ
- ・ 武道館
- ・ 野球場
- ・ 柳が崎ヨットハーバー
- ・ 栗東体育館
- ・ 伊吹運動場

##### (4) 引き続き検討

- ・ スイミングセンター
- ・ スポーツ会館
- ・ ライフル射撃場

## 県立社会体育施設の今後の方向性について

平成28年5月30日

スポーツ健康課

施設名	方針	考え方
県立体育館 (大津市)	移転整備	・老朽化が著しいことから、県民のスポーツ・健康づくり、文化活動の拠点として、また国体・全国障害者スポーツ大会等全国規模の大会を開催するにふさわしい体育館として移転整備する。
琵琶湖漕艇場 (大津市)	大規模改修	・老朽化が著しいことから、湖上スポーツの拠点として、また国体等全国規模の大会を開催するにふさわしい施設として活用できるよう、大規模な改修を行う。
長浜ドーム (長浜バイオ大学ドーム) (長浜市)	維持修繕	・必要な修繕・機器の更新を計画的に行うことで、現状施設の維持を行う。
アイスアリーナ (大津市)	維持修繕	・必要な修繕・機器の更新を計画的に行うことで、現状施設の維持を行う。
武道館 (大津市)	維持修繕	・必要な修繕・機器の更新を計画的に行うことで、現状施設の維持を行う。
野球場 (彦根市)	維持修繕	・必要な修繕・機器の更新を計画的に行うことで、現状施設の維持を行う。
柳が崎ヨットハーバー (大津市)	維持修繕	・県内におけるセーリング競技の拠点として活用度が高いことから、ボート会館等老朽化し危険性の高い施設の撤去を行うとともに、必要な改修を行う。
栗東体育館 (栗東市)	維持修繕	・体操競技を中心とした競技拠点としての活用度が高いことから、必要な修繕や機器の更新を行うことで、現状施設の維持を行う。
伊吹運動場 (米原市)	維持修繕	・ホッケー競技の拠点としての活用度が高いことから、必要な修繕や機器の更新を行うことで、現状施設の維持を行う。
スポーツ会館 (大津市)	引き続き 検討	・競技力向上・健康づくりの拠点としての必要性がますます高まることから、利用の促進と維持管理コストの低減をめざし、他施設との複合化の可能性を含め、引き続き検討する。
ライフル射撃場 (大津市)	引き続き 検討	・現行施設による施設維持は困難であり、撤去・移設を行うこととし、利用促進と維持管理コストの低減をめざし、他施設との複合化の可能性を含め、引き続き検討する。
スイミングセンター (彦根市) (県立プール)	引き続き 検討	・彦根総合運動場スイミングセンターの廃止に伴い、県として国体会場として活用できるスイミングセンターの整備を検討する。 ・並行して、市町が主体的にプールの整備を検討される場合は、その整備に対する支援の可能性について検討する。

## (2) スポーツ振興について

### 新県立体育館の移転整備について

#### 1. 県立体育館の整備方針

現県立体育館は老朽化が著しく、県民のスポーツ・健康づくり、文化活動の拠点として、また国体・全国障害者スポーツ大会等全国規模の大会を開催するにふさわしい体育館として移転整備する。

#### 2. 整備の方向性

- (1) 規模      メインアリーナ：2,700 m<sup>2</sup>程度（バスケットボールコート3面）  
                   サブアリーナ    ：1,000 m<sup>2</sup>程度（現体育館と同規模）  
                   観客席            ：5,000 席程度（固定席・可動席・仮設席の合計）

- (2) 場所      びわこ文化公園都市

※人口集積地に位置し、また高速道路の結節点にある。公共交通の充実により広域からのアクセスが容易。

※大学、医療機関、福祉施設など多様な立地施設・資源との連携により、スポーツに限らず、県民の健康づくりの拠点として幅広い機能発揮が期待できる。

※十分な広さの用地確保が可能。

- (3) その他    他施設との複合化の可能性について併せて検討

#### ※参考 概算総事業費（試算）

平成 26 年度実施した「県立社会体育施設の最適な管理についての調査研究」および、平成 27 年度実施した「びわこ文化公園都市（仮称）スポーツ・健康づくり拠点等調査」において、整備事業費の概算総額を下記のとおり 2 案試算した。

##### ○A 案（施設用地 51,000 m<sup>2</sup>）

導入施設：体育館・多目的広場・将来施設用地・駐車場・調整池

概算総事業費（試算）

93.4 億円（体育館 68.6 億円、造成等 19 億円、その他 5.8 億円）

##### ○B 案（施設用地 39,700 m<sup>2</sup>）

導入施設：体育館・将来施設用地・駐車場・調整池

概算総事業費（試算）

88.9 億円（体育館 68.6 億円、造成等 14.6 億円、その他 5.7 億円）



### 3. 今年度の取り組み

#### (1) 新県立体育館建築基本計画の策定

国体・全国障害者スポーツ大会の開催、国体開催後の利用の検討を考慮した建築基本計画を今年度中に策定する。

#### (2) 施設整備検討懇話会の開催

基本計画の策定にあたり、スポーツ関係団体、健康づくり、コンベンション関係、建築関係、経済界等の各団体や有識者を委員とした懇話会を年間5回程度開催する。

#### (3) 他施設との複合化の可能性について検討

#### (4) 民活可能性調査の実施

より望ましい県立体育館の整備をめざし民間活力の導入可能性を調査、検討する。

#### (5) びわこ文化公園への交通アクセスについて

施設整備検討懇話会において議論するとともに、大津湖南地域エリア地域公共交通活性化協議会とも連携して検討する。

#### (6) 「びわこ文化公園都市における新県立体育館整備等検討会議」の開催

### 4. 今後のスケジュール

平成 28 年度 新県立体育館建築基本計画の策定と民活可能性調査の実施

※基本計画素案を策定後、パブリックコメントを実施するとともに、  
民活可能性調査を実施

※都市計画（用途地域）の見直し、造成基本計画の策定

平成 29 年度～平成 30 年度前半 基本設計

平成 30 年度後半～平成 31 年度 実施設計

平成 32 年度～平成 34 年度 建築工事（平成 31 年度～ 造成工事）

平成 34 年度末 竣工

## (2) スポーツ振興について

## 滋賀県における生涯スポーツ施策について

## 1. 現状

- (1) スポーツ推進条例に基づき、スポーツ推進計画を行動指針に位置付け、その中で、5つの基本方針に基づく展開方策を実施している。
- ① 自ら行うスポーツ活動の充実
  - ② 次代を担う子どもの運動・スポーツ活動の充実
  - ③ スポーツ環境の充実
  - ④ スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化
  - ⑤ 滋賀の特性を活かしたスポーツの推進
- (2) スポーツ推進計画に基づく事業の実施を通じて、「すべての県民が身近にスポーツを楽しみ、自ら進んで参画し、互いに連携・協働することを通じて、幸福で豊かな生活を営むことができる共生社会の実現」を目指している。

## 2. 主な取組

- ① **スポーツボランティア支援事業**  
 スポーツ推進委員を各市町の核として、スポーツボランティアのリーダーの役割を担い、ボランティア活動の魅力を発信しつつ組織を維持・継続して、自主・自立できるよう支援する。  
 (具体的取組)  
 ボランティア登録バンク、ボランティア資質向上、ボランティア組織の確立
- ② **ピワイテジョギング・サイクルツーリング事業**  
 ジョギングやサイクリングを行う人に県立社会体育施設の設備を利用できるようにするとともに、自転車を駐輪するための備品を各所に設置して利便性を向上し、琵琶湖一周などの本県の特性を活かしたスポーツ振興を図る。  
 サイクルスタンド：28スタンド
- ③ **ラジオ体操普及事業**  
 滋賀県民総スポーツの祭典や市町スポーツイベントでの実施推奨、夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会普及およびラジオ体操指導員資格取得の推奨により、県民の健康増進や体力向上を図る。
- ④ **広域スポーツセンター運営委託事業**  
 地域スポーツの推進を図るため、総合型地域スポーツクラブ創設運営、活動全般に対して効果的、効率的に支援を行うため、広域スポーツセンターに委託を行う。
  - ・総合型地域スポーツクラブの育成
  - ・地域スポーツ指導者の資質向上のための研修

⑤ 地域コミュニティ促進事業

「子どもの体力低下」や「子育て世代の運動参加促進」の解決を図るため、総合型地域スポーツクラブにおいて、「運動遊び教室」、「母子運動教室」を実施するとともに、「幼児期の運動促進」「母親の運動機会の充実」プログラムを作成し、県内に普及する。

【参考】

各種スポーツ大会

- ・ 第72回 びわ湖毎日マラソン大会  
平成29年3月5日、皇子山～南郷洗堰～上水場（折り返し）  
参加者：285人（H27年度実績）
- ・ 第69回 朝日レガッタ  
平成28年5月1日～4日、琵琶湖漕艇場  
参加者：496クルー、1,448人（H27年度実績）
- ・ 第8回 滋賀県民総スポーツの祭典  
通年、県内各地  
参加者：35,941人（H27年度実績）
- ・ 第8回 びわ湖レイクサイドマラソン大会  
平成29年2月26日（予定）、15km 大津港～烏丸半島、12Km なぎさ公園～  
烏丸半島 参加者：1,931人（H27年度実績）
- ・ 第28回 びわ湖クロスカントリー大会  
平成28年12月11日（日）、希望が丘文化公園  
参加者：1,652人（H27年度実績）

表彰事業

- ・ スポーツ顕彰（県民スポーツ賞）
- ・ 文部科学大臣賞

## (2) スポーツ振興について

## 滋賀県における障害者スポーツ施策について

## 1. 現状

- 県大会参加者の高齢化と参加者減。(とりわけ若年層の参加者が少ない)
- 障害者のスポーツ環境が整っている施設が県立障害者福祉センターなどに限られている。
- 指導者の多くは、障害当事者か、日頃から障害者に直接関わる人であり、身近な地域で障害者スポーツを指導・支援する体制が十分とは言えない。

## 2. 主な取組

## (1) 県による障害者スポーツ大会の開催

## ① 滋賀県障害者スポーツ大会(県大会)

- ・対象競技は、個人6競技、団体4競技の計10競技
- ・県大会は、次年度の全国障害者スポーツ大会の個人競技予選を兼ねている。
- 平成28年度から「県民総スポーツの祭典」に位置づけられた。
- 参加要件を緩和し、スポーツ振興基金事業とも連動した形で参加者増を図る。

## 【参加者数の推移】

大会名	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
陸上	430	299	292	238	244	219	223
水泳	51	65	58	64	54	64	58
卓球	210	180	171	192	173	152	160
フライングディスク	307	278	229	195	186	187	184
アーチェリー	79	62	54	47	55	56	59
ボウリング	86	87	83	71	75	55	66
サッカー	51	53	52	82	50	43	62
バスケットボール	25	40	38	68	33	32	65
ソフトボール	38	45	57	119	79	84	67
バレーボール	53	41	27	36	31	31	23
合計	1330	1150	1061	1112	980	923	967

※平成24年度、サッカー・バスケットボール・ソフトボールは2回大会を開催

## ② スペシャルスポーツカーニバル

- ・知的障害者(児)を対象とした県大会(運動会)。
- ・知的障害者(児)相互の親睦と体力の向上を図るとともに、県民の知的障害者(児)に対する理解と協力を深めることを目的とする。
- ・実施競技は、徒競走、玉入れ、800m走、1500m走、支部対抗リレー、ダンスなど。
- ・県内の知的障害者スポーツイベントとして、昭和57年以来30年以上の歴史がある。

【参加者数の推移】

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
653	613	523	547	555	538

【参考：障害者手帳所持者数】

障害種別	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
身体障害	50,774	51,906	53,198	53,595
知的障害	10,749	11,077	11,462	11,961
精神障害	6,301	6,656	7,293	7,783
合計	67,824	69,639	71,953	73,339

(2) 全国障害者スポーツ大会への選手派遣等

①経緯

- ・平成13年に身体、知的の両大会が統合され「第1回全国障害者スポーツ大会」が宮城県で開催。以降、国体開催地で毎年開催され、平成28年は岩手県で第16回大会が開催予定。

②開催場所・日程等

開催地：国民体育大会の開催地の都道府県において開催

※滋賀県では昭和56年に第17回全国身体障害者スポーツ大会を開催

競技施設：原則として国民体育大会の会場を使用

③参加者・実施競技

参加者数：選手（身体・知的・精神）：約3,500人、役員：約2,000人

個人種目：陸上、水泳、卓球、フライングディスク（以上身体・知的）、アーチェリー（身体）、ボウリング（知的）

団体競技：車椅子バスケットボール、バスケットボール（知的）、グランドソフトボール（視覚）、ソフトボール（知的）、フットベースボール（知的）、バレーボール（聴覚・知的・精神）、サッカー（知的）

④選手団の派遣について

- ・開催地への出発日に滋賀県選手団の結団・壮行式を開催。
- ・全国障害者スポーツ大会中は、大会前日に行われる公式練習から参加。監督・コーチ・総務スタッフが移動日・練習日を含む6日間の期間中、生活面・競技面などから選手をサポート。
- ・帰県時には滋賀県選手団の解団式を開催。
- ・団体競技については、近畿予選会に優勝した場合に限り、全国大会に派遣する。

→学校教員や競技団体関係者を役員として派遣することで、指導者の質の向上を図る。

【過去3年間の本県の参加者数と成績】

年度	大会	参加者数	メダル数				大会新記録	自己新記録	団体競技出場実績
			金	銀	銅	計			
H27	第15回和歌山	33	16	17	12	45	5	16	
H26	第14回長崎	38	14	17	5	36	0	14	グランドソフトボール(12)
H25	第13回東京	40	13	10	9	31	3	21	ソフトボール(14)

### ⑤スポーツ選手の育成

全国障害者スポーツ大会の出場を目指す候補選手を育成するため、

- ・記録会（4月）、合同練習会（5月）、合同合宿（6月）を実施。
- ・上記のほか、競技別に全国障害者スポーツ大会まで月2回程度練習会開催。
- ・全国障害者スポーツ大会後も1月・2月・3月に合同練習会を実施。
- ・練習会には出場選手だけでなく、来年以降に出場が期待される選手も練習に参加してもらうことで、競技の普及向上に努めている。

### (3) 障害者スポーツ推進事業（平成27年度から：文科省委託事業）

障害者の身近な地域での障害者スポーツ普及の体制づくりやノウハウ作成に関する実践研究を実施する。

#### ①地域での障害者スポーツの普及

- ・委託先 総合型地域スポーツクラブ7団体（新規4団体、旧3団体）
- ・内容 障害のある人が身近な地域でスポーツを楽しめる環境を整備するため、障害者スポーツの実践を委託。

#### ②障害者スポーツボランティア育成事業

- ・委託先 びわこ成蹊スポーツ大学
- ・内容 障害者スポーツ実践地域への協力員派遣および地域ボランティア育成

#### ③障害者スポーツ支援事業

- ・委託先 NPO法人YASUほほえみクラブ
- ・内容 障害者スポーツ拠点未整備地域にむけた研修会や障害者スポーツ拠点整備のための支援員派遣

#### ④障害者スポーツ推進事業実行委員会

- ・内容 多様な関係者が参画する委員会を設置し、地域での障害者スポーツの実践を踏まえた普及体制づくりやノウハウ、障害者スポーツボランティア育成の実践を踏まえた育成手法などの研究を行う。

### (4) パラスポーツチャレンジプロジェクト（新規 競技力向上対策本部事業）

特別支援学校でこれまで取り組んでこなかった種目を実施しながらスポーツ活動の充実を図り、特別支援学校を拠点とした住民参加型のスポーツ拠点を整備する。

### (5) 滋賀県障害者スポーツ協会によるスポーツ振興基金事業

障害者スポーツの普及、選手発掘や地域拠点整備のための研修、相談事業を実施するとともに、競技クラブへの支援を行う。

## (2) スポーツ振興について

## プロスポーツの振興について

## 1. 県における位置づけおよび取組

## (1) 「滋賀県基本構想」(平成27年3月策定)での位置づけ

**第1章 長期ビジョン編****第3 基本理念と5つの目指す姿**

## 2 5つの目指す姿

## (2) 「地域の活力」

⑧ 誰もが日常的に文化・スポーツに親しみ、交流を深め、地域が創造的な活力に満ちています。

**第2章 重点政策編**

## 6 「文化とスポーツの力」を活かした元気な滋賀の創造

- すべての県民が日常的にスポーツを「する」、「みる」、「支える」ことができるよう、地域における運動・スポーツ活動を充実させるとともに、スポーツ環境の充実やプロスポーツチームとの連携を推進し、地域の活力を向上させます。

## (2) 「新しい滋賀の魅力をつくる文化・スポーツ戦略」(平成27年3月策定)での位置づけ

**戦略1 東京オリンピック・パラリンピックで元気な滋賀づくり**

## 2 滋賀ゆかりのトップアスリート等と県民との交流機会の創出

- 滋賀ゆかりのオリンピック・パラリンピアンや本県を本拠地とするプロスポーツチームなどのトップアスリートを「しがスポーツ大使」に任命し、地域の運動会や子どもスポーツ体験教室等で県民と交流する機会を創出するとともに、滋賀のスポーツの魅力発信を進めます。

**戦略3 県民が元気になるスポーツ振興と国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の開催**

## 1 競技力向上と世界で活躍する滋賀のトップアスリートの育成

- 「しがスポーツの子」として、本県を拠点として活躍する「滋賀レイクスターズ」(バスケット)や「MIOびわこ滋賀」(サッカー)、「東レアローズ」(バレー)といったスポーツチームによるトップレベルの試合を、子どもたちが観戦する機会を創出します。

## 6 プロスポーツ等との連携とスポーツ交流による地域活性化

- 本県におけるトップレベルのスポーツの「みる」機会を充実することにより、県内外から多くの観戦客を惹きつけ、地域活性化を図るため、スポーツチームへの効果的な支援を行うとともに、Jリーグ参入の可能性を検討します。

### (3) 主な取組

#### ① しがスポーツ大使

本県ゆかりのトップアスリート等を「しがスポーツ大使」に委嘱し、県内で開催される運動会等、身近な催しで交流し、滋賀のスポーツの魅力を国内外に発信する。

○ しがスポーツ大使 20名（個人16名、4団体） 委嘱（平成28年5月現在）

【50音順】

氏名／団体名	職種／競技種別等	出身地等
我孫子 智美	陸上棒高跳 日本記録保持者	草津市
井原 正巳	Jリーグ アビスパ福岡監督	甲賀市
江上 陽子	車いすバトミントン 日本代表	栗東市
垣岩 令佳	ロンドンオリンピック バドミントン 銀メダリスト	大津市
北田 千尋	車いすバスケットボール 日本代表	湖南市
木村 敬一	ロンドンパラリンピック競泳銀メダリスト	栗東市
瀬田漕艇倶楽部	ボート	大津市
園田 新	レスリング グレコローマン130kg級 (日本選手権2連覇中)	日野町
東レアローズ	V・プレミアリーグ加盟バレーボールチーム	大津市
東レ滋賀ボート部	ボート	大津市
鳥羽 賢二	びわこ成蹊スポーツ大学副学長 元バレーボール日本代表選手	大津市
則本 昂大	東北楽天ゴールデンイーグルス 選手	多賀町
福家 育美	車いすバトミントン 日本代表	守山市
望月 聡	びわこ成蹊スポーツ大学教授 元なでしこジャパンコーチ	大津市
松田 宣浩	福岡ソフトバンクホークス 選手	草津市
MIOびわこ滋賀	JFL加盟サッカーチーム	東近江市等
森本 真敏	陸上ハンマー投げ 2013 デフリンピック銀	竜王町
山田 光穂	柔道 2013 デフリンピック銅	彦根市
山中 慎介	WBC世界バンタム級チャンピオン	湖南市
山堀 貴彦	男子ホッケー日本代表監督 聖泉大学助教・同大学ホッケー部監督	米原市

(大使の活動内容)

- ・ 県内外における本県のスポーツに関する魅力の発信
- ・ 県内で開催される運動会や子ども体験教室といったスポーツイベント等における県民との交流
- ・ 滋賀県のスポーツ振興に向けた提言や助言

#### ② しがスポーツの子

子どもたちがトップレベルのスポーツを生で観戦することにより、将来の夢や希望を提供する機会を持つとともに、県内スポーツを応援する機運を醸成するため、入場料の2分の1を補助する。



- 本県を本拠地として活躍するプロスポーツ等  
滋賀レイクスターズ、MIOびわこ滋賀、東レアローズ女子バレーボール部
- 補助事業者  
子ども会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、学校（小学校、中学校、養護学校）  
その他スポーツ関連団体（営利目的の事業者は除く）
- 補助対象経費  
小中学生の入場料金

③ プロスポーツを活用した滋賀の魅力発信事業

滋賀レイクスターズの発信力を滋賀の魅力を伝えるツールとして位置付け、ブランド力向上を図るため、次の事業を行う。

○事業内容

- ・ユニフォームにブランド名、ロゴ等の掲示による露出
- ・アウェイゲームでのブース出展、PR物配布等をレイクスに委託

## (2) スポーツ振興について

### 次代を担う子どもの運動・スポーツ活動について

#### 1. 現状

すべての子どもが、将来自ら進んで楽しみながらスポーツに取り組めるよう、学校において子どもの運動・スポーツ活動を充実し、基礎を培う取組を実施している。

- ① 幼児期からの運動（遊び）・スポーツ活動の充実
- ② 体育・保健体育の授業の充実
- ③ 運動部活動の活性化

#### 2. 主な取り組み

##### ① 幼児期の運動遊び促進事業

幼児の運動能力等調査により実態を把握し、幼児期運動指針に基づいた運動遊びを推進する。また、指導者研修会の実施や実践事例集の作成・配付により運動遊びの促進を図る。

##### ② 子どもの体力向上推進事業

子どもの体力向上に係る課題や方策を共有し、子どもの運動機会の充実を図る。

##### ③ 体育教員の資質向上・指導力強化事業

運動好きの子どもを育成するために、運動量を保障しながら子どもをやる気にさせる授業改善と教員の資質向上・授業力強化を図る。

(授業研究、授業力アップ研修会、先進校視察)

##### ④ 運動部活動指導の工夫・改善支援事業

国の委託事業を活用し、専門的技能や適切な運動部活動指導の知識を持つ外部指導者（地域スポーツ指導者・退職教員）を学校に派遣することにより運動部活動の支援をする。（H28年度 中学校・高等学校 各30人）

(外部指導者派遣、トップアスリート・アスレチックトレーナーの活用)

##### ⑤ 運動部活動指導者スキルアップ事業

科学的で適切な運動部活動の指導ができる指導者を育成する。また、生徒の自主性や主体性を引き出すとともに、体罰防止や安全面について指導力の向上を図る。（年2回実施）

⑥ 中体連・高体連活動振興事業

中学校体育連盟が、春季総体、夏季総体、秋季総体を開催し、高等学校体育連盟が、春季総体、秋季総体を開催する。また、近畿・全国大会へ選手を派遣する。

⑦ 全国中学校駅伝大会開催事業

平成 28 年度から平成 32 年度まで 5 年間、滋賀県希望が丘文化公園において全国中学校駅伝大会を開催する。